

静岡県清水港周辺の地域活性化に関する一考察

—清水港周辺のまちづくりの現状・課題及び今後のまちづくりへの提言—

法政大学大学院政策創造研究科、准教授、博士（工学）・博士（政策学） 上山 肇

法政大学大学院政策創造研究科 政策創造専攻 修士1年 牧田 博之

法政大学大学院政策創造研究科 政策創造専攻 修士1年 河村 匡庸

法政大学大学院政策創造研究科 政策創造専攻 修士1年 広瀬 正剛

法政大学大学院政策創造研究科 政策創造専攻 修士2年 関 英夫

法政大学大学院政策創造研究科 政策創造専攻 修士2年 早川 和宏

要旨

近年、静岡市清水港周辺のまちづくりに関しては、その取り組みについて、地元自治体（静岡市）や清水地域で議論・検討が進められてきている。

本稿では、海（港）と川（巴川）で囲まれたこの清水都心地区を、地域活性化の視点でどのような水辺空間・都市空間に創り上げていけるか、また、世界文化遺産となった富士山と構成遺産三保松原の景観も活かしながら、魅力ある観光地として、交流や憩いの場として、賑わいをいかに創出できるかといったことを念頭に清水港周辺地域の現状と課題について探り、更に今後のまちづくりについて提言することを目的としている。

今回、行政担当者（静岡市）及び事業者に話を聞きながら実際に現場を見ることにより、改めて様々な角度から考察することができた。そして、「清水港周辺の憩い、賑わいと魅力ある都市空間にするため」に下記の事項に

ついて提言としてまとめた。

提言1 都市空間・景観の整備に関する提言：①都市計画制度（景観地区、地区計画）の積極的活用 ②土地利用転換の模索 ③歩行空間としての護岸整備 ④眺望空間の確保

提言2 商店街活性化への提言：①港と連動した活性化策の模索 ②賑わい空間創出のための規制・誘導

提言3 観光の視点からの提言：①「海からの訪問」という仕組みづくり ②観光案内機能の充実 ③観光資源（ブランド）のネットワーク化 ④江尻港地区と日の出地区の一体性の確保

キーワード：地域活性化、静岡県清水港、観光資源、都市空間、景観、水辺まちづくり

A Study on the regional activation around Shimizu harbor in Shizuoka

- The present condition and the subject of the area around Shimizu harbor and proposals -

Hosei Graduate School of Regional Policy Design
Hajime Kamiyama, Hiroyuki Makita, Masanobu Kawamura
Seigo Hirose, Hideo Seki, Kazuhiro Hayakawa

Abstract

In recent years, examination is advanced about the measure of city planning in Shizuoka city and Shimizu area. The purpose of this report is to explore about the present condition and the subject of the area around Shimizu harbor and to propose about future city planning. And we collected as three proposals. 1) The proposal about urban space and landscape ① Positive practical use of a city planning system (landscape area,

urban planning) ② Conversion of land use ③ Shore protection maintenance as walk space ④ Reservation of view space 2) The proposal about activation of a shopping center ① Activation which cooperated with the harbor ② Regulation and guidance to create the prosperous space 3) The proposal for the viewpoint of sightseeing ① The structure about “a visit from the sea” ② The function of the substantial sightseeing guidance ③ The network of tourist attractions

(brand) ④ Maintenance of the Ejiri harbor area and Hinode area

Keyword: regional activation, Shimizu harbor in Shizuoka, tourist attractions, urban space, landscape, waterside city planning

1. はじめに

近年、静岡市清水港周辺のまちづくりに関しては、その取り組みについて、地元自治体（静岡市）や各地域で議論・検討が進められてきている。

具体的には、静岡市において清水都心ウォーターフロント活性化検討（2012年度）がなされており、2013年度には自民党静岡市清水支部から、清水都心地区の賑い創出に向けた提言・要望書（静岡市の交流人口増大に向けて）が静岡市長宛に提出されている。

清水港では、国際貿易港としての「物流港」から、市民が憩える「賑いの港づくり」を進めている。港湾計画（静岡県策定）によると、清水都心地区の清水港江尻地区から日の出地区にかけては、物流機能を他に移転して親水空間を創出することになっているものの、その事業主体者を誰にするのか（従来は静岡県）、県と市の間で綱引きが続いているのが現状である。

本報では、海（港）と川（巴川）で囲まれたこの清水都心地区（図1）を、どのような水辺空間・都市空間に創り上げていくのか、また、世界文化遺産となった富士山と構成遺産三保松原の景観も活かしながら、魅力ある観光地として、交流や憩いの場として、賑い創出に向け

た提言にどのように結びつけていけるのかといったことを念頭に清水港周辺地域の現状と課題について探り、今後のまちづくりへの提言とすることを目的としている。

本報で事例としている清水港エリアに関する研究としては、清水港日の出地区を対象とした港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究^{1), 2)}や清水港における港湾成立の歴史とその資産に関する研究等^{3), 4)}がある。しかし、清水港エリア全体で都市空間・景観や地域活性化、観光といったことを総合的に探ったものではなく、現地を行政担当者及び事業者と共に具体的に見ながら検証した本考察には意義があるものと考えている。

2. 清水都心ウォーターフロント活性化検討の内容

2.1 検討の背景

「清水港」と「中心市街地」が一体となって形成された「清水都心地区」は、第2次静岡市総合計画（2010～2014）において、「港まち文化を活かした国際交流拠点」と位置づけられ、「世界に輝く『静岡』の創造」のために重要な役割を担っている。



図1 清水港周辺図（静岡市作成：清水港ウォーターフロントマップより）

静岡市はこれまでも、この「清水港」という重なる地域資源の活性化のため、ポートセールス、イベント、みなと色彩計画などの様々な取り組みを行ってきた。

しかし、「物流機能の立地再編」、「地域観光への関心の高まり」など、近年の社会環境の動向をふまえ、「はたらく港」「たのしむ港」の要素を加えていく、さらに積極的な取り組みが求められている。

そこで静岡市では港湾所在地として、「みなと」・「まち」全体を視野に入れた清水都心ウォーターフロント（江尻～日の出地区）の活性化のあるべき姿について、官民関係者からなる検討の機会を設け、その推進・実現方策を示すこととした。検討にあたっては、①「みなと」「まち」が一体となった活性化 ②地区・分野間の連携による厚みのある魅力づくり ③官民連携により時機を得た実現化を重視している。

2.2 基本方針

「江尻地区から日の出地区の異なる魅力の拠点を磨き、つなげていく」ということを重点目標に、これに基づいて①江尻魚港周辺の整備検討 ②清水港線跡遊歩道の魅力向上 ③日の出緑地の再整備 ④日の出ふ頭の交流拠点化 の4地区に着目して事業化を図ろうとしている。

3. 清水都心地区の賑い創出に向けた提言・要望書（静岡市の交流人口増大に向けて）の内容

2013年6月、自民党静岡市清水支部では以下の様な目的の基に5点について清水市に提言している。

3.1 目的

- ①「清水港ビジョン」・「都心地区まちづくり戦略」・「中心市街地活性化基本計画」の早期実現
- ②清水駅周辺が抱える問題点・課題の解決
 - (ア) 江尻港ウォーターフロントの目指す空間イメージの共有化と実現 (イ) 駅東口賑い施設の津波対策（津波ビル・避難路の確保）(ウ) 大型バスなど駐車場の確保・整備 (エ) 駅東口と西口商店街との一体的賑い創出（回遊性の実現）
- ③清水駅周辺地区と日の出地区との一体的賑い創出（回遊性の実現）
- ④静岡市・清水区の交流人口・観光客入込数の増加
- ⑤中部横断道路の開通をターゲットとした全庁的かつ確実な事業展開の推進

3.2 提言内容

- ①清水駅周辺地区の課題解決と賑い創出に向けて
 - (ア) 駅から江尻港にかけてのめざす空間イメージについて (イ) 津波避難ビル（駐車場）・避難路（自由通路）の緊急整備について (ウ) 駅東口と西口商店街との一体的賑い創出（回遊性の実現）に向けて
 - ②清水駅周辺地区と日の出地区との一体的賑い創出（回遊性の確保）に向けて
 - ③交流人口・観光客入込数の増加に向けて
 - ④LRT導入の可否判断に向けて
 - ⑤中部横断道路の開通（2017年度予定）をターゲットとした事業展開について
- このように静岡市や地元は清水地区の賑い創出に向けて考えてきているが、これらの適切性について、今回改めて検証する。

4. 調査方法

調査方法については、①資料に基づく事前調査（現状の取組みの把握）②現地調査③調査レポートの整理および報告書作成 を行っている。

(1) 調査日

調査及び作業は、①資料に基づく事前調査（現状の取組みの把握）：2013年8月、9月 ②現地調査：2013年10月13日（日） ③調査レポートの整理及び報告書作成：2013年11月 に行った。

(2) 調査対象か所

清水港エリアの ①清水港マグロまつり ②河岸の市／まぐろ館 ③清水駅前銀座商店街 ④清水港線跡遊歩道 ⑤エスパルスドリームプラザ ⑥マリパーク／日の出ふ頭 ⑦歴史的倉庫群 ⑧フェルケール博物館 ⑨巴川 である。その他にも日本平と三保の松原を視察している。

(3) 調査内容及び所見

調査については、実際に現地を見ながら行政（同行した市の職員）及び事業者に取り組みについてヒアリングするかたちで行った。

5. 調査結果

5.1 清水港マグロまつり

(1) 行政および関係者の取り組み

5年前から行政主催で始まったこのイベントは、本年から港湾・漁協関係者と駅前商店街などで構成される「実行委員会」が主催となり、清水駅周辺地域が一体と

なったイベントとなってきた。会場の魚市場や駅東口広場では、マグロの解体ショーや刺身の無料配布、加工品の販売など、西口商店街では、地元商店やホテルなどが協力して「まぐろ食べ歩き」イベントなどが開催され、県内外からの観光客で賑わっていた。

(2) 所見

- ① 駅前の広場がメイン会場となっており、大勢の来場者で賑わいある空間となっていた。駅前にこのような催し物が行える大規模な公共空間があることは大きな利点と思われる。 ⇒大規模公共空間の必要性
- ② 広場の賑わいを駅東側エリアの清水駅前銀座商店街に誘導することができないか。現時点では、鉄道が駅周辺のエリアを分断してしまっている。解決するために、地下道や高架デッキの設置など一体性を持たせるため大胆な都市施設整備の可能性を探ることも必要である。⇒一体性確保の都市施設整備の検討
- ③ メイン会場に掲げられた大漁旗は、漁港の表象を強化する機能も果たしている。駅の改札口から大漁旗が続くなど、より大規模な展開があってもよいのではないかと。 ⇒漁港表象方法の工夫



写真1 マグロまつり会場-1 写真2 マグロまつり会場-2

5.2 河岸の市／まぐろ館

(1) 行政および関係者の取り組み

市の魚市場に併設されていた商業施設「河岸の市（物販+食堂）」を、市場の建替えに合わせて拡張し、新たに「まぐろ館（レストラン中心）」として昨年オープンした。土日は県内外からの観光客で賑わっている。

土地は市有地、上物は全面民間（清水魚株式会社）で整備を推進した。より魅力ある観光施設にむけた内容の充実、駐車場の整備、防災面での津波対策（観光客の避難路・避難施設の整備）などが課題である。

(2) 所見

- ① マグロの解体ショーがプログラムされていたが、これは産地ならではのアトラクションであり、これまで以上にその土地ならではの体験を求める来場者（観光客）のニーズに合ったものとなるのではないかと。 ⇒「体験型観光」の実践
- ② 建物の内装に漁港の河岸らしい風情がやや欠けていると思われるため、さらに作り込みを行う必要性がある。

ある。 ⇒建物内部に河岸らしさの工夫

③ 清水で水揚げされた以外の産地の魚が販売されたり、レストランで提供されていたりしていたが、清水港周辺のプランディングの観点から考えると、地物にこだわって展開してもよいのではないかと。

⇒地域の独自性を演出

- ④ 「河岸の市」と海をつなぐ護岸整備された通路を歩行空間として整備することで、エリアの回遊性が高まるのではないかと。 ⇒ネットワーク化の必要性



写真3 魚市場の外観



写真4 まぐろ館の内部



写真5 魚市場への導線



写真6 清水港沿いの通路

5.3 清水駅前銀座商店街

(1) 行政および関係者の取り組み

清水駅の東西を線路で分断されている清水都心では、西口にある駅前銀座商店街の衰退が激しい。7月の七夕まつりには足の踏み場もないほど賑わうこの商店街も、平時は人影もまばらである。清水駅が線路を跨ぐ橋上駅舎となって「自由通路」が完成したが、東西の「回遊性」を実現するためには、「第2自由通路」が必要であり、商店街にとっては20年来の要望事項となっている。



写真7 商店街の風景



写真8 案内所の内部

(2) 所見

- ① マグロまつりが行われている時間帯に、人通りが乏しい状況になっている。シャッターが閉まったままの店舗も多く、活性化するための方策を講じなければ

ばならない。 ⇒商店街の活性化

- ②昔、店舗であったと思われる場所が宅地化され、マンションになっている状況も見られた。地区計画や条例といった行政サイドの規制・誘導手段を講ずる必要がある。 ⇒規制・誘導の必要性

- ③行政も関わる商店街の案内所には、清水港の歴史を伝える写真屋や飲食店の情報など、有益な情報が多い。ここを拠点に旅行する来訪者（観光者）を意識的に取り込むべきではないか。

⇒来訪者（観光者）の取り込みの検討

5.4 清水港線跡遊歩道

(1) 行政および関係者の取り組み

清水港東口の江尻地区からエスパルスドリームプラザがある日の出地区まで、JR 清水港線跡地が带状に続いている。ここは現在、自歩道（自転車・歩行者用道路）として主に通勤者が利用している市有地であるが、市は、市民や観光客の憩いの空間（プロムナード化）に変えようと、今年度一部改善を試みたが具体的な成果はまだ得られていない。



写真9 遊歩道の風景-1 写真10 遊歩道の風景-2

(2) 所見

- ①沿道のカフェの入り口が遊歩道に向いているのは、整備の成果と言えるのではないか。

⇒整備効果の検証の必要性

- ②ただし現状では、海の近くであること、海へ向かう道であることがやや伝わりにくい。対策として、道路の色彩やサイン計画を検討することにより実現することができるのではないか。

⇒道路色彩・サイン計画の検討の必要性

- ③大胆な発想ではあるが、自動車用道路の地下化や歩道の空中化といったことにより、視点場を同一にすることで海が見える空間づくりをするなどが考えられないか。 ⇒海が見える空間づくり

- ④線路跡であることを積極的に組み入れ、観光鉄道（ミニSLなど）を走らせることなどは効果的ではないか。 ⇒観光鉄道（ミニSLなど）の検討

- ⑤有名なキャラクターとなっている「ちびまる子ちゃん」の彫像などモニュメントを設置して集客を増やす

ことはできないか。

⇒有名なキャラクターのモニュメントを設置検討

5.5 テルファークレーン／エスパルスドリームプラザ

(1) 行政および関係者の取り組み

1978年、清水港日の出地区は、海上輸送のコンテナ化の進展などによる構造不況の影響で、国の「特定不況地区」の指定を受けた。1986年、官民協働の「マリニピア清水21推進協議会」が設立されると共に、「日の出地区ウォーターフロント再開発計画」が推進され、1999年、エスパルスドリームプラザの開業に至る。

世界的に有名となった地元出身さくらももさんのちびまる子ちゃんランド、寿司ミュージアムなど清水ならではの展示・体験コーナーや、海辺空間として、歴史遺産のテルファークレーン、砂浜人口海浜、ヨット係留施設、ウッドデッキ、観覧車などを配し、近年では年間400万人の観光客が訪れる一大観光拠点となっている。

(2) 所見

- ①清水港の歴史を現在に伝えるテルファークレーンを保存していることには意義がある。しかし、それが産業遺産であることがわからないといった声があるとのことなので、歴史的価値を伝える案内板をさらに目立つように整備したり、休日に実演のアトラクションを行うなどの対応が求められる。

⇒歴史的価値を伝える工夫の必要性

- ②マリニパークへつながる通路は板貼りとなっており、大道芸の練習が行われるなどコミュニティの場としても良好な水辺空間が創出されている。

⇒良好な水辺空間の形成

- ③エスパルスドリームプラザの「ちびまる子ちゃんランド」には外国人旅行者も数多く訪れるということもあり、案内板が他言語版対応となっているのは親切であると感じた。 ⇒外国人に優しい案内板



写真11 テルファークレーン 写真12 ドリームプラザの内部

5.6 マリニパーク／日の出埠頭

(1) 行政および関係者の取り組み

マリニパークは、ドリームプラザと日の出埠頭との間に位置し、富士山に向かって拓けたレンガ造りの回廊で囲まれたイベント広場である。年間を通し多彩なイベント

が企画され、日の出地区の賑わいの原動力になっている。

日の出埠頭は、清水と伊豆の土肥を結ぶ駿河湾フェリーの発着港であると同時に、豪華客船の接岸岸壁でもある。クイーンエリザベスや飛鳥Ⅱなどへの客船誘致活動も活発である。ソーラス条約により通常は岸壁への立ち入りが禁止され、フェンスで囲まれた状態であるが、外国貿易機能の移転などによって市民開放ができるよう、県と市で検討中である。

(2) 所見

① マリンパークからは富士山が望めるが、来訪者（観光者）視点で捉えた場合、工場群がやや良好なビューを遮っている印象を受けるため、都市計画の手法や行政の誘導により工場群の建物の高さや色彩計画などを検討するとよいのではないか。

⇒建物高さや色彩の工夫の必要性

② 水質がよく砂浜もあるため、現状の砂浜を拡大することにより、海水浴場として整備することはできないか。

⇒海水浴場としての整備の検討

③ 日の出埠頭は普段は立ち入りが制限されているエリアであるが、調査日には開放されており釣りを楽しむ家族連れで賑わっていた。ここを常時開放し市民が憩える場所とするとともに、船で海から清水港を訪問する観光者の「海の玄関口」となる各種機能を整備し恒常的に活用することはできないか。

⇒「海の玄関口」としての活用



写真13 マリンパークー1 写真14 日の出埠頭の釣り風景

5.7 歴史的倉庫群

(1) 行政および関係者の取り組み

明治から大正にかけて埋立地に伊豆石で建てられた倉庫群が、現在も現役で活躍中である。昨年、この歴史的倉庫群に着目した東大の建築学科が、倉庫前の路上でイベントを開催し、販い創出の可能性にチャレンジした。本年も引き続き開催予定である。

(2) 所見

① 現状では倉庫の中が使えず倉庫の外で大学と連携したイベントが行われているが、来訪者（観光者）を呼び込むという観点から、中身をギャラリーやカフェ、その他イベント施設として活用することで、より魅力的な観光空間となることが想定できる。



写真15 倉庫群



写真16 外壁のモルタルがはがれ、建築当時のレンガが現れた様子

⇒倉庫のイベント施設としての活用

② 外壁のモルタルが不均一にはがれてきている箇所が散見されたため、建築当時のレンガの外装に復元するなど、歴史的建造物として修景作業を行うのはどうか。

⇒修景作業の必要性

③ かつては清水港線の鉄道が運行されていたので、「観光鉄道」(ミニSLなど)を走らせるなどして、JR清水駅近辺の観光資源とネットワーク化を図るのはどうか。

⇒観光資源のネットワーク化

④ 上記のように観光資源として磨きをかけることで、映画やドラマのロケ誘致などの可能性も広がると考えられる。

⇒映画やドラマのロケ誘致

5.8 フェルケール博物館

(1) 行政および関係者の取り組み

清水“湊”の歴史を一日で観ることができる民営の歴史博物館。缶詰の歴史がわかる缶詰館も併設されている。専任の説明員から説明を受けると理解が深まる。

(2) 所見

① 清水港や缶詰などの地場産業の歴史、地域の文化がよくわかる施設なので、ぜひ多くの来訪者（観光者）に訪れてもらいたい施設である。

⇒来訪者（観光者）へのアピールの必要性

② 上記のように考えた場合、現時点では観光ルートとの関連性が見受けられないことから、来訪者（観光者）の回遊性を検討する必要がある。

⇒来訪者（観光者）の回遊性の検討



写真17 アプローチ



写真18 帆船の展示

5.9 巴川

(1) 行政および関係者の取り組み

川の両岸が2～3mの堤防で生活環境と隔離された巴川は、従来から親水利用の提案がされてきたものの、未だに実現できていない。

行政的には、不法係留のプレジャーボート対策と氾濫対策が中心課題のままの状況にある。



写真19 港橋から河口方面を望む



写真20 巴川の風景

(2) 所見

- ①現状の堤防の形態では人と水辺とに隔たりがあるため、それを解消するための検討は大きな意義があると思われる。 ⇒親水性の確保
- ②今後の周辺市街地の都市環境保全を考慮し、堤防沿いの建物の高さや色調の統一などの景観整備も検討する必要があるのではないかと。 ⇒景観整備の検討

6. おわりに

今回、行政担当者（静岡市）及び事業者に話を聞きながら実際に現場を見ることにより、改めて様々な角度から考察することができた。以上の調査の内容を踏まえ、「清水港周辺の憩い、賑わいと魅力ある都市空間にするため」下記のように提言としてまとめた。

6.1 都市空間・景観の整備に関する提言

- ①都市計画制度（景観地区、地区計画）の積極的活用：漁港としてのイメージを強化するとともに、それを損ねているような施設には修景について施策（景観計画・景観地区・地区計画といった制度を用いるなど）を講じる必要がある。
- ②土地利用転換の模索：使用度が下がっているというJR清水駅前のガスタンクに関しては、行政が借り上げて観光資源としての利用方法を模索するなどの積極的な用途変更を考える。それが難しい場合には、移設・解体、または色の変更といったことも模索すべきである。
- ③歩行空間としての護岸整備：護岸を歩行空間として整備することで、より回遊性を確保することができ、水

辺の観光空間としての効果が得られる。

- ④眺望空間の確保：富士山の眺望は、来訪者（観光者）の満足度を高める上では大きな効果があると思われるため、眺望に悪影響を与えている対象建築物等とは調整を図る必要がある。また、展望台などの新しいビューポイントを作ることも検討していいのではないかと。

6.2 商店街活性化への提言

- ①港と連動した活性化策の模索：漁港のイメージや港の賑わいと連動した活性化策を模索する必要がある。例えば、「清水港で新鮮な魚介類を食べたい」というニーズは幅広くあると思われるため、空き店舗を利用して、横丁などを運営することで港側と商店街側の回遊を生み出すことができる。
- ②賑わい空間創出のための規制・誘導：店舗の間にできるマンションについては、1階は店舗として商店街に開かれた状態を維持するなど規制・誘導を行う必要がある。

6.3 観光視点からの提言

- ①「海からの訪問」という仕組みづくり：日の出埠頭の箇所で開催したように、来訪者（観光者）にとっては新鮮な体験になると思われるため、遊覧船やフェリーと連携し「海からの訪問」という仕組みづくりを行なう。
- ②観光案内機能の充実：観光案内所や観光板（サイン）等、観光案内機能の充実は必須である。
- ③観光資源（ブランド）のネットワーク化：現在はそれぞれ観光資源が独立してしまっているように思われるため、改めて清水港周辺エリアの独自ブランド及び観光資源を整理し、それぞれのネットワーク化を模索する必要がある。
- ④江尻港エリアと日の出地区の一体性の確保：江尻港エリアと日の出地区の賑わいが工場群で分断されているため、工場を保有する企業と連携し、工場見学などの実施を通じて工業群エリアを観光ネットワークに組み込み、両エリアの一体性、回遊性を高めることはできないかと。

参考・引用文献

- 1) 清水裕章、河野琢磨、横内憲久、岡田智秀：港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究―（その1）静岡県清水港日の出地区を対象として―、2012年度日本建築学会大会（東海）学術講演会・建築デザイン発表会）、2012.9
- 2) 河野琢磨、清水裕章、横内憲久、岡田智秀：港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究―（その2）清水港日の出地区における地域資源の抽出―、2012年度日本建築学会大会（東海）学術講演会・建築デザイン発表会）、2012.9
- 3) 大森文彦、黒瀬武史：清水港における港湾成立の歴史と歴史的資産に関する研究、2012年度日本建築学会大会（東海）学術講演会・建築デザイン発表会）、2012.9
- 4) 東恵子：清水港における色彩計画の実践的研究―配色決定過程、芸術工学学会誌（46）、73-80、2008.3

本報は、法政大学大学院政策創造研究科 2013 年度ゼミ横断プロジェクト調査の結果をまとめたものである。